



第29回水道施設に関する規格専門委員会（9月29日）

水道用ソフトシール仕切弁（JWWA B 120）の規格改正について、第4回目の委員会を開催し、弁体ゴムの耐塩素性試験とその評価方法などについて審議した。この委員会でまとめた規格改正案について後日、公開縦覧を行い、11月に開催される工務常設調査委員会に諮ることとした。

第900回会誌編集委員会（10月17日）

本誌1月号の編集方針、投稿原稿の審査並びに水道協会雑誌の編集企画について審議した。

第25回給水装置に関する規格専門委員会（10月18日、19日）

給水用具類（JWWA B 107：水道用分水せん、JWWA B 108：水道用止水栓、JWWA B 116：水道用ポリエチレン管金属継手、JWWA B 117：水道用サドル付分水栓、JWWA B 129：水道用逆流防止弁、JWWA B 134：水道用減圧式逆流防止器、JWWA B 136：水道用ポリエチレン管サドル付分水栓）の規格改正について、10月18・19日に第1回目の委員会を開催し、JIS規格化された銅合金材料の追加、部品寸法規定の見直しなどについて審議した。

水道用ステンレス鋼管・管継手（JWWA G 115・116）の規格改正について、10月19日に第1回目の委員会を開催し、JIS規格に合わせて規格名称の一部変更、継手の標準接合方法の一部変更、継手種の追加及び削除などを審議した。委員会でまとめた水道用ステンレス鋼管・管継手の規格改正案について後日、公開縦覧を行い、年度末に開催される工務常設調査委員会に諮ることとした。

第84回検査事業委員会（10月19日）

はじめに報告事項①第83回検査事業委員会議事録②平成22年度検査事業決算見込み及び平成24年度検査事業予算案について事務局より説明を行い異議無く了承された。

次に、議題①委員長の互選を行い、木村康則東京都水道局建設部長が選任された。引き続き議題②日本水道協会水道用ダクト管検査施行要項の改正、③日本水道協会水道用ダクト管



鉄異形管検査施行要項の改正、④日本水道協会水道用ダクト管及び異形管接合部品検査施行要項の改正、⑤水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管検査施行要項の改正、⑥水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管継手検査施行要項の改正については、検査施行要項等専門委員会委員長の川内武彦大阪市水道局工務部配水課長が説明を行い、異議無く了承された。

水道 GLP 認定証授与式（10月19日）

水道 GLP 認定委員会で認定の更新が決定した熊本市上下水道局水道部水源課水質管理室（認定番号：JWWA-GLP074）の認定証授与式を日本水道協会専務理事室において行った。



第61回水道 GLP 認定委員会（10月25日）

水道 GLP 認定について、認定更新検査機関として奈良県水道局（認定番号：JWWA-GLP029、10月30日付）が、認定維持検査機関として株式会社北陸環境科学研究所（認定番号：JWWA-GLP053）、平成理研株式会社（認定番号：JWWA-GLP054）、及び静岡市上下水道局（認定番号：JWWA-GLP055）が、それぞれ審議され決定された。

第180回常任理事会（10月25日 於：北九州国際会議場）

吉田一彦北九州市水道事業管理者から総会開催地代表挨拶の後、御園専務理事が議長となり議案の審議に入った。第1号議案「日本水道協会第80回総会の運営について」、第2号議案「役員改選について」、第3号議案「次期総会の開催地について」、それぞれ事務局より配付資料に基づき詳細な説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。また、次期開催地に内定した三島旭川市水道事業管理者より歓迎の挨拶があった。

第80回総会（10月26日～28日 於：西日本総合展示場新館）

第1日目（10月26日）

開会式においては、開催地代表として北橋北九州市長、日本水道協会を代表して本会副会長の高谷岡山市長から挨拶があり、次いで厚生労働大臣（代理：石飛健康局水道課長）、総務大臣（代理：橋本自治財政局公営企業課長）、福岡県知事（増田福岡県県土整備部長）、佐々木北九州市議会議長、幡掛日本水道工業団体連合会会長から来賓祝辞があった。



総会会場：西日本総合展示場新館



開会式



日本水道工業団体連合会水道展



歓迎挨拶：
北橋北九州市長



開会挨拶：
副会長高谷岡山市長



厚生労働大臣祝辞：
石飛健康局水道課長



総務大臣祝辞：
橋本自治財政局公営企業課長



福岡県知事祝辞：
増田福岡県県土整備部長



祝辞：佐々木北九州市
議会議長



祝辞：幡掛日本水道工業
団体連合会会長



議長：吉田北九州市
水道事業管理者



東日本大震災御礼：
東北地方支部長、
高橋仙台市水道事業管理者



東日本大震災御礼：
関東地方支部長、
土井横浜市水道事業管理者



事務常設調査委員長報告：
高広広島市水道局次長



工務常設調査委員長報告：
吉田東京都水道局
多摩水道改革推進本部長



衛生常設調査委員長報告：
伊佐治名古屋市上下水道局
技術本部施設部水質管理課長



監査報告：白濱監事



退任挨拶：
御園専務理事



新任挨拶：
尾崎新専務理事



次期総会開催地挨拶：
三島旭川市水道事業管理者



厚生労働大臣表彰



日本水道協会会長表彰



北九州水道100周年記念合同国際シンポジウム：
国際貢献から海外水ビジネスの展開へ

続いて表彰式が行われ、はじめに厚生労働大臣表彰として石飛健康局水道課長より大城康信氏外81名の受章者に対し表彰状と記念品が贈られた。これに対して受章者を代表して、飛原秀登氏より謝辞が述べられた。

次に、日本水道協会感謝状が粕谷前厚生労働省健康局水道課長に贈呈された。

続いて日本水道協会会長表彰が行われ、副会長の高谷岡山市長から尾崎勝氏外13名、特別賞として吉武泰志氏外106名、有効賞として田原麻衣子氏外3名、勤続賞として久保田和也氏外746名に対して表彰状と記念品が贈られた。これに対して全会長表彰受賞者を代表し、水川元氏から謝辞が述べられた。

表彰式の後、定款の定めにより開催地の正会員代表として吉田北九州市水道事業管理者が議長となり議事に入った。

会議に先立ち、東北地方支部長の高橋仙台市水道事業管理者と関東地方支部長の土井横浜市水道事業管理者より、東日本大震災における支援に対してお礼の発言があった。

次に会務報告として、事務局より平成22年度本会事業の活動状況について、配付資料に基づく詳細な説明があった。

続いて、常設調査委員長報告として、事務常設調査委員長報告が高広広島市水道局次長より、工務常設調査委員長報告が吉田東京都水道局多摩水道改革推進本部長より、衛生常設調査委員長報告が伊佐治名古屋市上下水道局技術本部施設部水質管理課長より、それぞれ報告があった。

昼食休憩後、議案の審議に入り、第1号議案「定款の変更」、第2号議案「平成22年度日本水道協会会計決算の認定」、第3号議案「平成24年度日本水道協会会計予算」について、事務局より提出資料に基づく詳細な説明があり、慎重審議の結果、原案のとおり決定した。なお、第2号議案については、事務局の説明に続き監事を代表して白濱英一氏から監査報告があった。

次に、第4号議案「役員改選」について、事務局より提出資料に基づき新役員について説明があり、慎重審議の結果、原案のとおり新役員を決定した。続いて本総会をもって退任される御園専務理事、新役員を代表して尾崎新専務理事より挨拶があった。

なお、第1日目の会議終了後、「持続可能な国際貢献の実現に向けた海外水ビジネスの展開」と題した北九州水道100周年記念事業との合同国際シンポジウムを開催した。

第2日目（10月27日）

会員提出問題討議に入り、東日本大震災関係として、問題1「東日本大震災における水道施設の復旧・再構築に対する財政支援の強化・創設について」、問題2「放射性物質に係る対応の推進について」、問題3「水道事業における電力確保対策等について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、補助関係として、問題4「水道事業に対する財政支援の拡充及び補助要件の緩和について」、問題5「水道施設の再構築事業等に対する新たな行財政支援体制の確立について」、

問題6「再生可能エネルギー施設の導入促進について」、問題7「地域自主戦略交付金（一括交付金）の制度設計について」、問題8「簡易水道統合に対する財政支援について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

続いて、起債・繰出関係として、問題9「起債融資条件の改善及び地方公営企業繰出制度の拡充等について」、問題10「公営企業借換債制度の拡充及び条件緩和並びに政府資金の借換債制度創設等について」、問題11「地方公営企業会計基準の改正に係る財政措置及び移行期間の確保等について」が一括上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

休憩後、災害対策関係として、問題12「水道施設の震災対策等に対する行財政支援について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

続いて、問題13「大震災発生時における浄水用薬品等必要物資の確保及び情報提供のあり方について」が上程され、前段部分の「浄水用薬品等の確保に関する検討や関係業界団体等への働きかけなどの措置」に関しては、今後、各製造団体と緊急時を含めた協定の締結などを事務局において検討することとした。また、後段部分の「被災地に関する情報提供のあり方」については、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、水源関係として、問題14「ダム等の水源施設の開発促進について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

続いて、水質関係として、問題15「水道水源における水質保全対策及び水質事故の発生防止の強化について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、その他として、問題16「地下水利用等による専用水道に係る法整備及び対応について」、問題17「未規制貯水槽水道の規制の強化について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

昼食休憩後、問題18「配水管等の耐用年数の見直しについて」、問題19「指定給水装置工事事業者の登録更新制度の創設について」が一括上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

続いて、問題20「布設工事監督者資格取得講習会の開催について」、問題21「国際貢献を担う人材育成への支援について」が一括上程され、討議の結果、問題20については、事務局において今後検討を進めることとし、問題21については、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

最後に、問題22「公民連携による水道事業の国際展開の推進について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

また、会員提出問題討議の終了時会場より、水道施設の耐震化事業及び更新事業の一層の推進を図って欲しいとの要望があった。

続いて、石飛厚生労働省健康局水道課長、笠井総務省自治財政局公営企業経営企画室長から、行政説明として、施策などについて説明があった。

次に、次期総会開催地について、定時総会の開催地は、定款の定めにより、あらかじめ前

年の総会で定めることとなっているため、第180回常任理事会に諮った結果、旭川市と内定いただいていること等を事務局から報告し、報告のとおり満場一致で旭川市に決定した。続いて、次期総会開催地を代表して三島旭川市水道事業管理者より挨拶があった。

続いて閉会式に入り、日本水道協会を代表して御園専務理事より挨拶があった。

第3日目（10月28日）

事務局設定4コースに分かれ、北九州市の水道施設等を視察した。

第2回水道工事監督業務検討専門委員会（10月31日）

本委員会は、技術系職員の減少に伴い、水道工事監督業務の外部委託化が見込まれ、監督業務委託を効率的かつ確実に進めるため、具体的な手引き等が必要となることから、その検討を行うことを目的に設置され、今回2回目の委員会が開催された。

まず、議題①「監督業務に関する検討の視点について」は、事務局より検討の視点等について説明を行い、次に、議題②「報告書の構成（案）及び作成分担について」は、報告書構成（案）及び作成の分担について審議が行われた。

平成23年度水道技術管理者研修会（11月1日～11月2日）

157名の参加を得て、「水道事業の現状と課題」「東日本大震災における水道施設の被害状況」「水道水質管理に関する最近の動向」について研修を実施した。

なお、本研修会では毎年特別講師として各界の著名な方に講演を依頼しており、今回は東京大学名誉教授の月尾嘉男氏が「命の水、環境の水」と題して講演を行った。

平成23年度浄水場等設備技術実務研修会（第5回：11月8日～11月11日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々16名の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターの訓練用設備を利用して、実際にポンプの分解組立等、機器類の運転・操作及び浄水処理について実習するとともに設備機器の保守・管理の実務について、研修を実施した。

第150回水道技術管理者協議会（11月10日・11日 於：京都市）

長岡京市水道事業の概要について説明を受けた後に、水道法及び同法施行規則の一部改正、第7回日米台水道地震対策ワークショップ、第4回IWAアジア太平洋地域会議、東日本大震災水道施設被害等現地調査団報告についての報告を行い、それぞれ意見交換を行った。

第2日目は、京都市上下水道局松ヶ崎浄水場の視察を行った。

第67回中小規模水道問題協議会（11月11日）

情報交換事項4題が提案され、①水道工事に伴う濁水等による苦情対応について、②水道料金の滞納整理について、③既設管撤去について、④飲料水の放射線測定に関する住民からの問合せ対応について、それぞれ情報交換を行った。



第901回会誌編集委員会（11月14日）

本誌2月号の編集方針、投稿原稿の審査並びに水道協会雑誌の編集企画について審議した。